

かかりつけ医認知症対応力向上研修

高齢者が日頃より受診する診療所等の主治医(かかりつけ医)に対し、適切な認知症診療の知識・技術や認知症の人本人とその家族を支える知識と方法を習得するための研修を実施することにより、認知症サポート医との連携の下、各地域において認知症の発症初期から状況に応じた認知症の人への支援体制の構築を図る。

○ 研修対象者

診療科を問わず、各都道府県及び指定都市管内で勤務(開業含む)する医師

○ 実施主体

都道府県・指定都市(事業の一部を適切な事業運営が確保できると認められる関係団体(各都道府県医師会等)等に委託も可)

○ 研修カリキュラム

かかりつけ医の役割(30分)	
ねらい	認知症の人や家族を支えるためにかかりつけ医ができることを理解する
主な内容	<ul style="list-style-type: none">・かかりつけ医とは・早期発見・早期対応の意義・かかりつけ医に期待される役割・認知症高齢者の現状・認知症施策の方向性について
診断・治療(90分)	
ねらい	認知症診断・治療の原則を理解する
主な内容	<ul style="list-style-type: none">・認知症の診断基準・認知機能障害と行動・心理症状(BPSD)・家族が最初に気づいた日常生活の変化・認知症初期の発見のポイント・MCIの人への対応・認知症の問診とアセスメント・認知症と間違えやすい症状・認知症の治療とケア・認知症の説明(告知)と法的な取扱い
連携と制度(90分)	
ねらい	認知症の人を支えるための医療・介護、地域が連携した生活支援の重要性を理解する
主な内容	<ul style="list-style-type: none">・連携の意義と実際・認知症の人への支援体制・若年性認知症の特徴と現状・認知症の人と運転・認知症と成年後見制度・地域啓発のポイント

○ 研修実績と新オレンジプランでの目標

42,057人(26年度末実績) → 60,000人(29年度までの目標)